オープンキャンパスを開催

6月11日、8月5・6・26・27日、10月1日に、来場型のオープンキャンパスを開催。高校3年生に加え、高校1、2年生やご父母など、6日間で計10,954名の来場があった。

模擬授業やキャンパスツアーのほか、在学生トークライブなどの企画に、多くの高校生が参加した。当日の運営にあたった学生スタッフの笹子由貴恵さん（済3年）は「受験生や保護者の方々が、模擬授業やキャンパスに感動され、笑顔で帰られる姿がとても印象的でした」と語ってくれた。

高校生の相談に応じる学生スタッフ

2023年度9月卒業式を挙行

9月20日、2023年度9月卒業式・学位記授与式を天野貞祐記念館大講堂で挙行し、65名の卒業生が本学を巣立った。

山路朝彦学長は式辞で「本日卒業される皆さん方には、直面する幾多の課題に対応できる『感性と技能』、人の悲しみに共感できる『想像力』に一層の磨きをかけ、『自信』をもって、仕事に生活に臨み、揺るぎない人生を築いていただきたいと思っています。どのような境遇にあっても決して下を向くことなく、夢や希望を持ち続け、いずれ訪れる『大いなる幸福』を確実に掴み取ってください」と述べた。

また、卒業生を代表して佐々木亜有香さん（法4年）は「私たちは在学期間のほとんどをコロナ禍の中で過ごし、多くの制約のもと、嵐のような日々に順応してきました。これら獨協大学でのすべての経験が、私たちのこれから先の人生の糧となるでしょう」と謝辞を述べた。

式典終了後には、学生食堂において4年ぶりとなる祝賀会が催され、参加した卒業生やご父母と教職員が笑顔で歓談する姿が見受けられた。

■学士　独3名、英13名、仏7名、交6名、言11名、済8名、営9名、環2名、律2名、関2名、総2名　　計65名

2023年度 防災基本訓練実施

10月18日、2023年度防災基本訓練を実施した。授業中に「首都直下地震」が発生し、震度6強の地震に見舞われたという想定で、学生・教職員がシェイクアウト訓練、避難者安否情報集約訓練および避難誘導訓練を行った。

避難誘導訓練では、障がい者支援の取り組みとしてイーバックチェア利用想定訓練も実施した。また、希望者参加訓練では、草加消防署西分署や草加市危機管理課の協力も得て消火器使用訓練、AED訓練、避難所設営訓練および備蓄品の配布訓練を行い、防災を身近に考える一日となった。

獨協大学英語教育研究会（DUETA）講演会をハイブリッド形式にて開催

7月29日、獨協大学英語教育研究会（DUETA）主催の第27回講演会（『5ラウンドの真実』）が対面とオンライン併用のハイブリッド形式にて開催された。講師は、岡村賢一氏（埼玉県熊谷市立別府中学校校長、本学卒業生）と落合千裕氏（埼玉県熊谷市立玉井中学校教諭）が務め、およそ85名が参加した。参加者からは「ラウンドシステムの実際の様子を教えていただき勉強になった」「新たな気づきが多くあり、普段の自分の授業を見直すきっかけになった」といった声が寄せられた。

本学学生が英語検定試験学習会で学習指導

2017年度草加市と本学は教育支援連携について協定を結び、学校教育充実と本学学生の実践的な教育充実のために様々な事業を行っている。その一環として、9月30日、本学学生15名が、草加市内の中学3年生を対象とした英語検定試験直前学習会（主催・草加市教育委員会）の講師を務めた。

当日は、草加市内の中学校から3年生約160名が参加し、受験する級別に分かれて学習した。講師を務めたのは、主に英語の教員免許状取得を目指す学生で、中学生に対してレベルに合った学習指導を行った。

結果報告

学生対象「獨協大学におけるジェンダーとセクシュアリティの現状に関するアンケート調査」教職員対象「セクシュアル・マイノリティ学生への対応状況把握のためのアンケート調査」

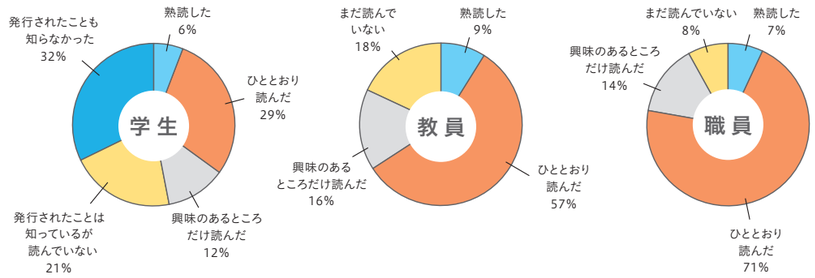
獨協大学ダイバーシティ推進連絡会*は昨年7月、学生を対象に「LGBTQ学生を取り巻く現状とニーズ把握のためのアンケート調査」を実施しました。それから1年後の今回の調査では、学生に対しては「本学がどのくらい学生にとって過ごしやすい環境に変われたか（変われていない部分はどこか）」を、教職員には「学生対応で配慮していること、とまどっていること」等を聞きました。

アンケート結果の概要を、2回に分けて報告します（次回は2024年1月号に掲載予定）。

*ダイバーシティ推進連絡会
副学長を部会長、学生部長を副部会長とし、教務課、学生課、保健センター、入試課、キャリアセンターの職員で構成。入学試験受験から卒業、キャリア支援まで、連携して学生サポートすることを目的とする。

回答者数：学生269人（全学生の3.2%）、教員161人（全教員の26.0%）、職員118人（全職員の41.7%）

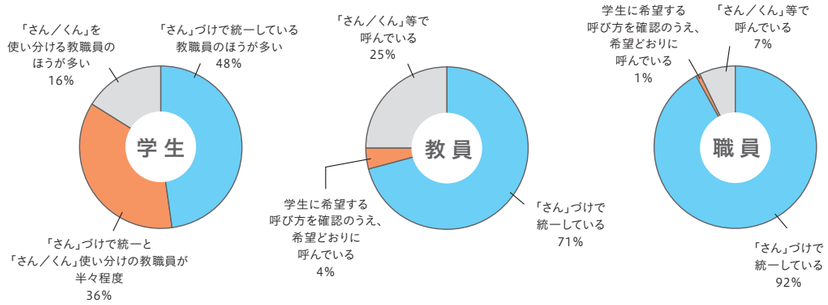
■ 昨年12月発行の「ジェンダーとセクシュアリティについてのハンドブックVer. 1」は読みましたか？（共通の設問）



教員・職員は「読んだことがある」人がいずれも8割、9割を超えていますが、学生は「読んだことがない」「発行されたことも知らなかった」の合計が半数を超えていました。

2023年度新入生には入学時に全員配付しましたが、2年生以上には周知が不十分だったのかもしれません。2024年度以降も、新入生には全員配付し、ガイダンスを実施する予定です。

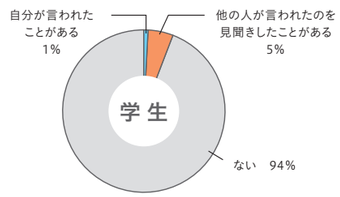
■ 獨協大学では、学生の呼び方は「〇〇さん」で統一するか、学生の希望に沿った呼び方をするよう推奨していますが、現状はどうですか？（共通の設問）



教員の4分の3、職員の9割は「さん」づけで統一または学生が希望する呼び方をしていると回答していますが、学生の受け止め方はかなり異なるようです。

教員のアンケート回答率は26.0%だったことから、未回答の教員の中に「さん／くん」を使い分けている方が多いのかもしれません。

■ 4月以降にジェンダーやセクシュアリティについて不快な発言を受けた経験は？（学生のみ回答）



〈他の学生からの発言〉
「料理ができると女らしい」「女なら結婚して子どもを産むから5年ぐらいしか働かないよ」など、女性に対するジェンダー差別発言への怒りが多く寄せられました。

〈教職員からの発言〉
「女性／男性は～しなければならない」「男の子なのに日傘をさすのはおかしい」などのステレオタイプの発言、相手が異性愛者である前提での「ガールフレンド／ボーイフレンドはいる？」といった質問への不快感を示すコメントがありました。

「ジェンダーとセクシュアリティについてのハンドブックVer.1」をまだ読んでいない方は、大学HPからダウンロードしてください。学生課（学生センター1階）前でも配布しています。

ジェンダー